

図画工作

(9) 図画工作

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実が図られているか。 (2) 互いの活動や作品を見合いながら、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動の充実が図られているか。 (3) 情報手段を活用した学習活動の充実を図るための工夫が図られているか。 (4) 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習場面の設定や組み立てが工夫されているか。 (5) 児童や学校の実態に応じて、家庭や地域社会、地域の美術館などとの連携やその利用及び活用が図れるよう工夫されているか。 (6) 児童の主体性や興味・関心を引き出すための工夫が図られているか。 (7) 他教科での学習を生かしたり、関係づけたりする教科横断的な学習の視点が配慮されているか。
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前教育や中学校との接続への配慮 ・ 安全指導の充実

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
図画工作	図画工作	9 開隆堂

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 造形的な活動場面の写真と吹き出しが多くの特載されており、児童が発想や構想を深めながら造形的な活動に主体的に取り組めるよう工夫されている。
- 他の児童と気持ちを伝え合いながら、共同して造形的な活動に取り組む題材が設定されている。特に3・4年下においては、表題が「力を合わせて」となっており、巻頭の見開きと巻末P57に大きく取り上げられている。(1・2年上P12～13、P28～29、P34～35、P47 1・2年下P10～11、P48 3・4年上P12～13、P26～27、P34～35、P46～47 3・4年下P16～17、P28～29 5・6年上P16～17、P24～25、P28～29、P40～41 5・6年下P16～17、P22～23、P26～27、P28～29)
- 自らの作品や親しみのある美術作品などの見方や感じ方を他の児童に伝える表現活動を通して、鑑賞における資質・能力の向上と対話的な学びを関連させている。(1・2年上P37、P56～57 1・2年下P40、P57 3・4年下P26～27、P38～39 5・6年上P42～43 5・6年下P26～27、P36～37、P42～43)
- 表現や鑑賞の活動において、感じたことや思ったことなどを言葉で伝え合い、コミュニケーションを図りながら活動できる題材が多く設定されている。
- 「話し合いのしかた」(3・4年下P57)では、話し合いのポイントが具体的に例示されている。
- 題材の最後に「ふりかえり」を設定し、他の児童や指導者との対話を通して、言語能力の育成を図れるよう配慮されている。
- 「コンピュータを活用しよう」(5・6年下P57)では、コンピュータやデジタル機器の活用場面やその方法が具体的に例示されている。
- 「Myキャラが動き出す」(5・6年上P40～41)など、デジタルカメラやタブレットを使った表現や鑑賞の活動事例が取り上げられている。(5・6年上P10～11)
- 「技術の発達と表現の広がり」(5・6年上P46～47)では、コンピュータを活用したプログラミング教育に関連する事例が取り上げられている。一方で、コンピュータを活用しなくても児童のプログラミング的思考を育成できる題材として「コロがるくんの旅」(5・6年上P24～25)が取り上げられている。
- 全学年の巻頭ページに、学習の見通しを持たせるため、年間に扱う中心的題材や活動に取り組んでいる様子が見開きで紹介されている。
- 親しみやすいキャラクターを用いて、育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応した「学習のめあて」を全ての題材で示し、より学びが深められるよう工夫されている。また、重点的に取り組ませたいめあては、色づけされ強調されている。
- 題材の最後に、学習のめあてに対応した「ふりかえり」が児童にとってわかりやすい言葉で示され、自己評価が行いやすいよう工夫されている。
- 各地の美術館や地域社会での取組を「みんなのギャラリー」として取り扱い、児童が自分たちの住む地域に目を向け、児童や学校の実態に応じて活動できるよう配慮されている。(各冊子P48～49)
- 様々な材料や地域の伝統文化などを取り上げ、図画工作で育成する力が、地域や身近な社会に関わることを示している。また、「同じもの、たくさん」(5・6年上P17、P19)等のページにも、児童の活動と関連する地域の造形や日本の伝統文化を取り上げている。

- 「美術館をたのしもう」（5・6年上P56～57）では、美術館での鑑賞マナーやその活用方法を具体的に紹介している。
- 鑑賞ページには「小さな美術館」として、美術館や地域の作品が取り上げられている。
（1・2年上P40～41 1・2年下P38～39 3・4年上P32～33 3・4年下P36～37 5・6年上P335・6年下P30～33）
- 児童の主体性を引き出すため、表紙の題字や題材名などにイラストや記号、鮮やかな色彩が用いられ、デザインが工夫されている。
- 目次の次のページには、表題に関連した内容を写真で大きく掲載し、児童の興味・関心を引き出すよう工夫されている。
- 全学年の教科書に「ひらめきコーナー」（P18～19）を設け、児童の造形的な活動への興味・関心を引き出すよう工夫されている。
- 「本から飛び出した物語」（3・4年下P26～27）等、他教科等と関連して扱える題材を設定し、各題材のページ右下に「あわせてまなぼう」として教科名が示されている。
- 3・4年生以上において、図画工作で使う言葉の英単語を掲載し、二次元コードを活用して音声を聞くことができる等、外国語活動・外国語科との連携が図られている。

2 使用上の便宜

- 内容や学習指導要領で扱われる道具、材料について、児童の発達の段階に応じて系統的に題材が配列されている。
- 学習指導要領に示されている年間授業時数を踏まえた適切な分量である。
- A4版で造形的な活動の様子が大きく掲載されており、文字の大きさ、色、書体も鮮明で分かりやすい。言葉のまとまりを考えて改行が行われており、図版や写真などが重なる場合には、区切りをつける等、配慮されている。
- 目次には、題材の内容が色別のマークで見やすく整理されている。また、それぞれの題材の中心となるめあては、オリジナルキャラクターを用いて分かりやすく示されている。

3 その他

- 中学校との連携等を意識した題材が取り上げられている。
（3・4年上P56～57「みんなとつながる」等）
- 紙面に二次元コードを掲載し、制作の手順やポイントだけでなく、用具の安全な使い方等を動画でわかりやすく紹介している。（3・4年下P52～53等）

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
図 画 工 作	図画工作	1 1 6 日 文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 造形的な活動場面の写真と吹き出しが、発想や構想の深まりのヒントになるように示されている。また、1・2年下から、「図画工作のつながり ひろがり」のページが設定され、児童の造形的な視野を広げることができるよう配慮されている。
- 他の児童と気持ちを伝え合いながら、共同して造形的な活動に取り組む題材が設定されている。(1・2年上P14～15、P38～39 1・2年下 P19、P32～33、P44～45 3・4年上P12～13、P28～29、P40～41、P46～47、P52～53 3・4年下P10～11、P48～49 5・6年下P44～45)
- 自らの作品や親しみのある美術作品などの見方や感じ方を他の児童に伝える活動を通し、鑑賞の資質・能力の向上と対話的な学びを関連させている。(1・2年上P31 1・2年下P14～15、P26～27、P29、P42～43 3・4年下P23 5・6年上P16～17、P52～53)
- 発表の様子、鑑賞など他の児童と対話する場面の写真が多く掲載されている。また、言語活動の充実を図る手がかりとして、作品を制作した児童のコメントが多数掲載されている。
- 「カードを使って」(5・6年上P16～17)では、アートカードゲームによる対話的鑑賞を取り上げている。また、自らの作品についてプレゼンテーションを行う場面も紹介されている。(5・6年下P47)
- 題材の最後に「ふりかえり」を設定し、他の児童や指導者との対話を通して、言語能力の育成を図れるよう工夫されている。
- 「使ってみよう 材料と用具」では、カメラの使い方やインターネットの活用法について示されている。(3・4年上P65 5・6年下P63)
- 「形が動く絵が動く」(5・6年上P18～19)等、タブレットやコンピュータ・カメラを使った表現や鑑賞の活動事例を児童の発達段階に応じて取り上げられている。(1・2年下P28～29 3・4年上P10～11、P22～23、P30～31 3・4年下P38～39 5・6年上P16～17、P28～29 5・6年下P12～13、P28～29、P46～47)
- 児童が表したいものを実現するための手順や組み合わせを論理的に考える場面が設定されるなど、プログラミング的思考を育むための題材が取り上げられている。(1・2年下P48～49 3・4年上P44～45 3・4年下P50～51 5・6年上P50～51 5・6年下P16～17)
- 目次の横に「図画工作をはじめよう」のページが設定され、児童が見通しをもち主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。
- 児童に分かりやすいように、全ての題材において育成を目指す3つの柱に基づく「学習のめあて」が特徴的なマークで示され、授業後には自らそれを生かして振り返ることができるよう工夫されている。
- 題材の最後に、活動を通して感じたり考えたりしてほしいことが例示され、学びに向かう力、人間性等の涵養につながるよう工夫されている。
- 地域での作品展示など、地域社会と協働した活動例が取り上げられている。(3・4年上P56～57 5・6年上P54～55)
- 伝統的な遊び、玩具、工芸、文化などについて、題材ページ(3・4年下P56～57 5・6年上P24～25 5・6年下P10～11、P26～27、P38～39、P57)や特設ページ(1・2年下P63 3・4年下P2～4、P56～57、P65 5・6年上P2～4、P36～37 5・6年下P2～4、P56～57)で取り上げられている。
- 「美術館へ行こう」(5・6年下P36～37)では、様々な地域の取組を紹介するとともに、

地域の美術館にも目を向けることができるよう配慮されている。

- 児童が制作した作品などを家庭で扱う様子や、保護者と共に鑑賞して楽しむ様子を写真で掲載し、図画工作の学びを生活に関係づけられるよう工夫されている。(1・2年上 P40～41 1・2年下 P42～43 3・4年上 P57 3・4年下 P18～19、P28～29 5・6年上 P24～25)
- 児童の興味を引き出すため、題材名とそのデザインや色彩等が工夫されている。また、裏表紙には、図画工作や教科書に興味を持たせるための工夫として「形や色を楽しもう」のコーナーが設定されている。
- 巻頭・巻末には、児童が造形的な見方・考え方を働かせて学習を進めることができるよう、魅力的な身の回りのものや美術作品等の図版が掲載されている。
- 身近なものや素材、色、形への興味を引き出すための工夫として「ひらめきポケット」のページが設定されている。また、児童の興味を広げられるように、造形的な活動を選択できる題材が多く設定されている。
- 「言葉から想像を広げて」(5・6年下 P42～43)等、他教科等での学習を生かしたり、関係づけたりした題材が複数取り上げられている。
- 道徳科と関連が深い題材には、ページ右下にマークが示されている。

2 使用上の便宜

- 児童の発達段階に応じて学びが深められるよう系統性が配慮されている。
- 各学年とも、年間の行事や季節に応じて題材を選択できるよう配列されている。
- A4判で児童の思いや工夫が表現された作品が多く掲載され、図版や写真などは見やすいよう鮮明に印刷されている。
- コントラストや文字の背景色等、カラーユニバーサルデザインに配慮した編集がされている。また、図版や写真などが重ならないよう配置が工夫されている。

3 その他

- 1・2年上の巻頭には、幼児期の経験や学びを振り返ることができるページが設けられている。また、5・6年下の巻末には、中学校への学びのつながりを意識することができるページが設けられている。(5・6年下 P13 等)
- 多くの題材で「きをつけよう」「かたづけ」の項目が設けられ、児童が材料や用具について安全で適切な扱いができるよう配慮されている。